

令和4年度 第1回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録（要旨）

■開催日時・場所

令和4年8月5日（金）午後2時から午後3時30分まで
防府市役所 議会棟3階 全員協議会室

■次第

1. 開会
2. 委員紹介
3. 挨拶
4. 議事
 - (1) 協議事項
 - ア 防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱の一部改正について
 - イ 地域公共交通計画（案）の策定に向けて
 - ウ 公共交通の利用促進の取組について
 - (2) その他
5. 閉会

■配付資料

	資料名
1	令和4年度第1回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	防府市地域公共交通活性化協議会 委員名簿
3	防府市地域公共交通活性化協議会 設置要綱
4	資料1 防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱の一部改正について
5	資料2-1 地域公共交通計画（案）の策定に向けて
6	資料2-2 防府市の公共交通に関するアンケート調査票
7	資料2-3 民生委員の方を対象とした公共交通に関するアンケート調査票
8	資料2-4 高校生を対象とした公共交通に関するアンケート調査票
9	資料2-5 防府市地域公共交通網形成計画 概要版
10	資料3-1 公共交通の利用促進の取組について
11	資料3-2 ナッジによる利用促進のススメ

■出席者名簿 敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	出席
	地域公共交通の利用者等	防府市自治会連合会 佐波地域自治会連合会長	山田 拓男 (代理：中林 賢造)	代理出席
		防府市老人クラブ連合会 理事	湯原 温茂	出席
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席
		市民代表	権代 祥一	出席
		公共交通事業者等	防長交通(株) 営業部長	河合 貴志 (代理：藤井 崇)
	中国ジェイアールバス(株) 運輸部生活交通活性化推進室長		河内 政好	出席
	西日本旅客鉄道(株)山口支社 防府駅長		金田 善次	欠席
	(有)野島海運 取締役		阿部 幸典	出席
	(一社)山口県タクシー協会 理事		大隅 洋三 (代理：重舂 伸)	代理出席
	山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部防府分会 分会長)		山下 一也	出席
	道路管理者 港湾管理者	中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	三浦 道人	欠席
		山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	牧 浩一郎	出席
		山口県防府港務所 主査	藤井 健二	出席
	警察	防府警察署 交通課長	藤村 俊之	出席
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	山田 敏行	出席
		山口県観光スポーツ文化部 交通政策課長	渡邊 昭博	出席
	計画作成市	防府市 地域交流部長	杉江 純一	出席
	事務局	地域交流部次長	池田 晋	
		地域交流部 参与	熊野 博之	
地域交流部地域振興課 課長		岡田 由紀江		
地域交流部地域振興課 課長補佐		重田 英之		
地域交流部地域振興課交通政策係 係長		國貞 裕司		
地域交流部地域振興課交通政策係 主任		坂井 貴		
地域交流部地域振興課交通政策係 主任		江山 雄一郎		

■議事録

1. 開 会

2. 挨 拶

地域交流部長あいさつ

3. 委員紹介

委員、事務局紹介

会長、あいさつ

目山会長 要綱の改正、計画の変化があることを事前に伺っている。重要な会議であるため、関係機関の皆様にはこの街の公共交通がうまく回っていくための示唆に富んだご意見をいただきたい。

4. 議 事

会長から会議の公開について確認後、議事を進行。

交通事業者から新型コロナウイルス感染症に伴う公共交通の現状を報告

- バス事業者① 一般路線バスは、コロナ禍前の令和元年と比較すると、収入が約2割減った状態が続いており、回復の兆しは見えていない。高速バスについても、通常運行をしているが、コロナ禍前と比べると大幅に落ち込んでいる。
新型コロナウイルスの感染防止対策を講じているが、当社乗務員が感染したことがあり、さらなる感染拡大を懸念している。今後の感染状況によっては減便する形を考えている。そのようなことがないように感染予防対策を講じていく。
- バス事業者② 高速バス事業が大きな部分を占めているが、まだ回復していない。5月頃から人の動きが活発となってきており、久しぶりに特急便が運行できた路線もあるが、コロナ禍前と比べるとまだまだの状況である。
一般路線の乗車人数について、広島県側ではテレワーク勤務やリモート授業が続いており回復が鈍いが、山口県内においてはコロナ禍前の9割程度ぐらいまで戻ってきている。ただ、実質これが精一杯と感じている。
新型コロナウイルス感染症については、感染対策を講じながら運行している。
- タクシー事業者 運賃収入は、コロナ禍直後の令和2年5月は、コロナ禍前の令和元年と比較すると2割程度で、雇用の維持ができるかどうかという状況であった。その後は、増減を繰り返し、直近の令和4年7月後半は、コロナ禍前の7割程度まで持ち直している。今後の推移については、乗務員の減少等の理由で、運賃収入が9割程度にしか戻らないという認識。乗務員が感染した後に、タクシーを運行できなくなることを懸念している。夜の動きについては、8割程度まで持ち直している月もあるが、運行台数が少ない。繁華街において数社しか運行していないため、迷惑をかけてしまっている。

(1) ア 防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱の一部改正について

事務局から資料1を説明。

- 目山会長 網形成計画と交通計画は、名称の変更以外に何が根本的に違うのかがはっきりしないと、委員全員が納得して、改正しようとはならない。
要綱を改正するに当たり、端的に説明いただきたい。
- 事務局 従来の計画と新しい計画の主な違いは三つある。
一つ目は、策定が法的に努力義務化されたこと。二つ目は、従来の公共交通サービスに加え、それを補完する自家用有償運送等を計画に位置づけることが可能になったこと。
三つ目は、収支等の定量的な目標を設定し、毎年評価をすること。

◎協議結果

防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱を一部改正する。

(1) イ 地域公共交通計画(案)の策定に向けて

事務局から資料2を説明。

- A 委員 前の網形成計画の制度ができた頃に比べ、公共交通というのが厳しい状況に置かれている中で、使えるものを全て使い、地域住民の移動の足を確保するためにどうするかを考えていきましょう、というところが大きいと思っている。
- B 委員 地域交通というのは、地域それぞれ実情が異なっており、公共交通部門の役割も地域によって違う。どういうまちづくりをしていくかという中で、地域住民、交通事業者、行政が協力し、公共交通の役割を計画の中に位置づけることが大切である。
- 目山会長 アンケートの内容において、ヒアリング先の拾い出しについて、先の委員の発言のポイントに結びつくようにしていただきたい。
例えば高校生は自転車で通学しているが、どういう割引だったらバスに乗ってくれるのか等を引き出せるかどうかが課題。アンケートだけで把握することは難しいため、通学実態をとらえていくために、高校に通学手段の割合についてヒアリングをした方が早い。
- C 委員 今後、自家用有償旅客運送等いろいろなものが見えるようになるということで、非常にいいことだと思った。他の自治体において、スクールバスを公共や運送に流用する事例があり、利便性を高めているようである。今後防府市においてそういった運用ができれば利便性が高まると期待している。さらに、費用対効果について、しっかりと考えていくべき。
今回のアンケートについては2000人を想定しているが、過去のアンケートの実績があれば、回収率を教えてください。
- 事務局 網形成計画を策定するときに、公共交通の担当課で市民アンケートという形では行っていないが、まちづくりの観点の都市計画課の計画において、公共交通の利用状況につい

- て設問を置き、そのアンケート結果を基に網形成計画を策定している。回収率は39.8%。
- 目山会長 高校生が自転車通学する理由は、自転車を購入した費用より、公共交通を継続して利用した運賃の総額が高い為。公共交通の優位性として、エリア定期があるが、補助等がついて安くなることは可能性としてあるか。それともニーズがないと動き出せない状況か。
- バス事業者① 防府市内の学生においては、街が平野なので、バスより自転車を利用した通学がほとんどである。一部、山口市の徳地地域までの通学利用がある。
- 目山会長 通学に特化した定期の割引については、検討の余地があるかもしれないが、設定して利用があるかという点と懐疑的である。
- 目山会長 私の勤務先の学校では、半数が遠距離通学。定期利用でバスを利用している人が多く、エリア定期を使っており、その結果、通学区域外への立ち寄りを増やす効果が考えられる。
- D 委員 公共交通を利用するための仕掛けを作っていくという視点にならないと、基本計画を深いものにする段階としてどうなのか、と懸念している。
- D 委員 移動制約者を把握するアンケートをとられるということは本当にいいことだと思うが、民生委員を対象とした公共交通に関するアンケート調査において、民生委員がどれほど実態を把握しているかが少し不安。今後、福祉部局と連携すると思うが、実態把握について意見を聞きたい。
- 事務局 ご指摘の通り、把握をされていない民生委員もいる。アンケートは11月に実施を予定しており、それまでに民生委員の方の意見も伺いながら、移動制約者等の実態の把握に努める。
- E 委員 高校生の通学の仕方は自転車通学がほとんどであるが、最近、スクールバス等により市内から市外の高等学校に通学する人が増えていると認識している。
- 事務局 さらに、この1年の間に周南・宇部・山口方面に電車通学している生徒が増えていると思っている。事務局でその辺りの比率等を把握しているか。
- 事務局 前回の網形成計画策定時に高校に聞き取り等を行ったところ、県において通勤・通学の実態について調査をしている、と伺った。今後、その辺りを確認する。
- E 委員 これから先、さらに防府市の子供たちが市外に流出してしまい、その流れが形成されてしまうことが心配。子供たちの利便性を損なわないようにしないといけない。利用状況等の実態を把握した上で、事業者と協力し、調査をしていただきたい。
- 目山会長 高校生のアンケートはフォームズというマイクロソフトの集計ツールで実施するのは如何か。QRコードを書いたチラシを配り、フォームズで回答が得られると、集計結果はすぐ出る。ただ回答率は担保出来ない。高校に出向き、要望を伝え、ヒアリングまで実施するといふ。
- 目山会長 可能かどうかは別になるが、答えてもらうために特典や懸賞を用意すると、回答率が上昇する。利用促進の観点から、バスカードが良いと思う。
- 目山会長 バス・タクシー事業者の方々から、機材の関係で運行実績がとれない時間帯があるという話を伺った。公共交通基本計画のデータを積み上げる際、時間帯別の交通量・利用者数・車両の運行状況・ニーズ等を整理しないと、詳細な分析が出来ない。そのため、時間帯別のサービスを検討しつつ、利用者側の需要・事業者側の供給を把握し、細やかに積み上げをしていただきたい。

事務局 高校生のアンケートについては、今のところ市のデジタル推進課において Logo フォームという集計ツールがあるため活用を考えている。使い勝手の良さで、使用する集計ツールを決定する。

特典や懸賞については、予算等の問題があるので、ご意見として承り、研究させていただく。

時間帯別については、目山会長のおっしゃるとおり今回の活性化再生法の改正にあわせて独占禁止法の特例で、事業者ごとでダイヤの調整が可能に改正された。その辺りも踏まえ、きめ細やかに時間帯別で検証を進めていく。

◎協議結果

議論した箇所を事務局が検討することとし、詳細は事務局一任とする。

(1) ウ 公共交通の利用促進について

事務局から資料3を説明。

◎協議結果

特に意見なし。

(2) その他

杉江副会長 防府市においては、バス路線の補助及びバス・タクシー券を発行し、公共交通の維持に努めている。しかし、車に乗らなくなった年配の方において、公共交通を利用せずドアツードアのサービス等を利用される方が一定数存在すると認識している。

数年前にバスの運賃低廉化の実証実験を小野地域において実施したものの、利用者の増加に繋がらなかった経緯もある。

ただ、交通弱者と言われる方々の利便性を高めるために、施策を考え、より良い交通計画を作成していきたいと考えている。皆様のお知恵を頂きたい。

目山会長 計画の切り替えについて、ご納得いただき、さらに期待をいただけたのではないかと思います。今後も、皆様方にご協力いただき、公共交通の維持、さらに発展させていくということで進めさせて頂きたい。

5. 閉 会
